

日韓スポーツ交流事業

平成20年度概算要求額：未定
 (平成19年度予算額：64百万円)
 (平成19年度までの予算総額：573百万円)
 事業評価実施年度：平成15年度
 事業開始年度：平成15年度
 事業達成年度：平成19年度

●主管課

スポーツ・青少年局競技スポーツ課（課長：小見 夏生）

●関連課

●事業の概要

サッカー・2002年ワールドカップ日韓大会の開催を契機に発足した「日韓共同未来プロジェクト」の一環として、スポーツ競技会の開催や合同合宿等を行い、スポーツの国際交流を通じた国際的な視野を持つ青少年の健全育成や日韓両国・地域の友好親善を推進する。

●効率性

○インプット

平成19年度までの予算総額：573百万円(補正後502百万円)

(予算の推移)

(単位:百万円)

	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
当初予算額	142	142	132	94	64

○アウトプット

平成18年度までの派遣・受入総数：6,258人

(派遣・受入人数の推移)

(単位:人)

	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
派遣人数	878	1,340	940	713	
受入人数	918	401	759	309	

○アウトカム

当該事業により、平成15年度から18年度までに計6,258人について派遣・受入を行ったことにより、スポーツを通じた日韓両国(地域)の友好親善の推進とともに、国際的な視野と資質を持った青少年の健全育成が図られた。また、本事業を契機に日韓両国地域間の文化交流や行政関係者等との交流が促進された。なお、平成18年度は、現下の厳しい財政状況により、目標人数である1,600人を達成することが出来なかったが、

① 平成18年度に磐田市が実施した事業においては、事業後に参加者に対して実施したアンケートで、小学生18人のうち17人が「交流相手の選手についての理解が深まった」と回答しており、また、18人全員が「韓国に対する理解や関心が深まった」と回答していること

② 同年度に郡山市が実施した事業においては、事業後に参加者に対して実施したアンケートで、小学生20人全員から「食事を一緒に食べたりできて、言葉の交流はむずかしかったけど手を使っておたがいに分かるようにして、あるていどおたがいにわかり合えたと思います。食事の仕方でも教えてもらって韓国の食事の仕方が分かりました。」や「言葉は通じなかったけど心が通じた。」など、青少年の健全育成や日韓両国・地域の友好親善が図られた趣旨の回答が得られたこと

③ 同年度に富田林市が実施した事業においては、事業後に参加者が作成した感想文で、中学生32人全員から「韓国の人は思った以上に日本の文化を取り入れていました。音楽・ゲーム機・車etc 日本と韓国はもっと仲良くなれる国です。」や「韓国に来て学んだことは、言葉や文化の違いがあっても、どんな人とでも通じ合えるということです。」など、青少年の健全育成や日韓両国・地域の友好親善が図られた趣旨の回答が得られたことなどから、スポーツを通じた日韓両国の友好親善及び国際的な視野と資質を持った青少年の健全育成が図られたものとする。

●有効性等

○施策目標

日韓両国の青少年の交流競技会等のスポーツ交流事業を通じて、競技力の向上を図るとともに、両国の友好親善を一層深め、次代を担う国際的な視野と資質を持った青少年の健全育成に資する。

○事業開始時に想定した効果及び平成19年度までに得られた効果

事業開始時に年間1,600人(派遣・800人/受入800人)の交流を目標とした。

平成15年度から18年度までに計6,258人について派遣・受入を行った。

●今後の政策への反映方針(継続のみ)

引き続き予算確保に努めていくとともに、委託先の地方自治体に対し、事業に参加した青少年に対するアンケート調査の実施を義務付けたり、翌年度以降も継続して活動を実施することを求めたりするなど、より本事業の成果及び課題を把握するための手法を検討してまいりたい。

●得ようとする政策効果(継続のみ)

国際競技力向上に向けた国際的な視野と資質を持ったジュニア競技者の育成及びスポーツ交流を通じた日韓両国(地域)の友好親善の推進

●備考

特になし